



陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

第8号 (昭和25年1月号) から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で64年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

中国の正月

佐藤玉榮

ある年(多分昭和七年の頃)、天津伝道庁の月次祭で、お参りに行こうと思ひ、汽車の時間を気にしながら、北京駅まで洋車を飛ばした。ようやく間にあつたとホツとして駅に入ると、あまりに静かすぎる。驚いて聞いてみると、今日は陰暦正月一日だから、汽車は休みだという。

せっかちの日本人としての地肌^ちがまだそのままに、塗り替えられずにいたその頃の私にとつて、実に感無量だった。

あちらにいと、毎年二回宛お正月を迎え送る。陽暦正月には官廳、学校などで、通り一遍



→ 中国の旧正月に飾られた「うさぎ提灯」

に祝賀する。家にあつては日本人らしく元朝祭を勤め、お雑煮の一碗でも頂く。だが何故か形式的に静かに終わつてしまふ。社会全体に正月気分が漂つていないからであろう。

その正月がすんで、一ヶ月か一月半たつと、いよいよ陰暦正月になる。一陽來復! 本当に長い冬にさいなまれた我々に、天は暖かい春光を恵んでくれる。街々は急に活気づく。どここの家でも赤い紙に対句を書いて、門柱や部屋の出入り口に貼り付けて賀ぐ。老婦人に至るまで赤い簪^{かんざし}をさして嬉しそうだ。商店も店を閉じて休む。この時になって、初めてゆったりとしたお正月気分を味わい得る。また、私のよ

うな怠け者には、陽暦正月に心を新たにし、心定めをした点が増る。未だその実行が出来ていなくとも、幸いこの陰暦正月から、もう一度心を新たに直すという便宜が与えられるので実に有難い。

陰暦の年末になると、街々に白い鉛^{あめ}が、メリケン粉にまぶされて売られ始める。この頃が中国商人にとつても家庭にとつても

も、危険信号の時である。大晦^{おひそ}日が近づくからである。だから彼等はこの鉛を「ヤオミンダグアントンタン」(命取りの鉛)と言う。勿論借金取りが大いに活躍する。この難関をどうにか逃れて、いよいよもう一、二日で正月になる頃、「チュウミンダグシユイボボ」(命拾いの肉饅頭)と言つて、あたかも日本人がお雑煮を祝うように、誰も彼もがこの水餅を食べる。この頃になると、借金取りも縁起をかつぐのか、諦めるのか、もう借金の取立てに來ないからである。実に面白い人生の悲喜織り交ぜた言葉である。

終戦後、北京で三回お正月を迎えた。第一回、即ち昭和二十一年のお正月には、まだ元の教会在が接収を受けていなかったのが、遠慮して楽器だけは抜いたが、元朝祭を勤めさせて頂いた。二十二年及び二十三年の正月は、その頃私は北京日本連絡班に職員として、華北における日本の後始末のお仕事に参画させて頂いていたので、戦犯容疑者として苦しい日夜を不自由な拘留所で送つておられる方々のために、松の小枝や猪口一杯の清酒を御飯や副食に添えて差し入れさせて頂けたことは、血を分けた同

胞の一人として、せめてもの心の表れであった。この三回ともに陰暦正月をゆるゆる楽しむ気になれなかつたのは、敗戦国民として、また止むを得ぬことであつたらう。

日本に帰つて、誰もが等しくもらす言葉であるが、住めば都とか、外地が懐かしい。すべて思ひ出は美しいものである。あたたかも遠くから望んだ富士の秀峰の美を讃え得るように、今はしばしば北京の夢を見るようになってしまった。引揚げ、一回だけ日本での正月を迎えたが、餃子等を作つて、あちらの陰暦正月を偲んだ私である。十八年も長くいた北京は、私にとつて第二の故郷である。この内地で中国的気分を少しでも吸収したいと、中国食に中国語にそれを求める私は、半中国人になつてしまつたのであろうか。

さとう・たまえ 中国布教に生涯をささげ、北京崇文教会を設立、『黄土に祈る』の著者としても知られる佐藤軍紀氏の妻。終戦直前、軍紀氏北京にて逝去。敗戦で日本に帰国後は崇文分教会(京都)の二代会長として中国伝道の基礎固めに奔走したほか、『天理教教典』の中国語訳にも尽力した。



エンタツ「君、何を一体、そんなに考えてるのや?」

アチャコ「僕が考えごとしてるの、どうして君に分かる?」

工「どうしてって? 君が物を考へてる時は直ぐに間の抜けた顔になるから、それで一遍に分かる」

ア「放っとけ」

工「一体、問題は何や? 政治、経済、哲学、宗教、芸術、或いは国際問題、労働問題、それとも……?」

ア「違う、違う、そんな重大な問題やあらへん」

工「じゃ、どんな重大な問題や?」

ア「君に相談するほどの話と違う」

工「隠すと承知せんぞ。白状せい」

ア「はい、手には何故、五本の指がついているか?」

工「ふうん。そら、こんなこと考へたら間の抜けた顔になるのは当たり前や」

ア「そんな失敬な! 嫌がるのを、君が無理に言わたんやないか」

工「こら、済まん。でも、君の顔は、怒った時の方がずっとしゃんとして、頼もしい、これからは君、その顔一本で通すことに決めて、しつかり、おこれ、おこれ!」

ア「安もんの豆炭^{まめたん}みたいに言うな。しかし、真面目な話、どう考へても不思議なのは、何で手に指が五本もついているのやろう?」

工「その訳を、君は本当によく知らんのか?」

ア「内緒で、そつと教えて貰えんか?」

工「早い話が、親指が無かったら、どうなると思う?」

ア「どんな場合に、いちばん不便を感じる?」

工「論より証拠、他の指で蜜柑の皮を剥いて見い、一遍に親指の有難さが分かる」

ア「よう言わんわ」

工「どの指にも銘々の役目があり、親指は蜜柑の外に、蚤^{のみ}や虱^{しむ}をつぶすのが専門や」

ア「きたない役目やな」

工「鍋の底を舐^なめる時には人差し指、指輪は中指、唇の化粧はくすり指、小指が出勤するのは鼻くそをほじる時やないか?」

ア「ほんに、皆ちゃんと意味があるな」

工「あるとも。君の子供でも大人でも物を食べた後で、口を拭く時には誰でも手の甲を使う。あれには一体どんな意味があると思う?」

ア「なるほど。何で手の平では口を拭かんのやろ?」

工「そら、大抵の場合、手の甲の方がまだ手の平ほど汚れてないからで、本当に誰でもよく考へている!」

耳のテスト

自分の耳がよく聞こえるかどうか?

この大切な問題に、案外に無頓着な人が多い。

次の簡単なテストで、皆さんも自分の聴覚の働きを調べてご覧なさい。

普通の人なら、静かな部屋で約五尺離れて立っている人が手に持っている時計のカチカチという音が聞こえる筈です。

あなたの耳はどうですか?

普通の人なら、約十間離れた処に立っている人の話し掛ける言葉が一語一語はつきりと聞き取れる筈です。

あなたの耳はどうですか? 更に、集會室とか教会で、お話を聞く場合に、はつきりと聞き取ろうと思つて、あなたは上体を前に乗り出す様なことはありませんか? もし、そうなら、あなたは一緒にいる他の人達より耳が悪いという証拠です。勿論、あなたに限らず、そんな席上で正常な状態で話を聞き取り難い人は、

誰でも聴覚が鈍くなつてきていると言つてもよろしい。それから往來などで誰かと立ち話をしている時、あなたは相手の喋る言葉にことさら努力して耳を傾けたりしませんか?

それはやがて習慣になり、そうしないでは他人と話が出ないようになります。

とにかく、以上は耳の働きが普通ではない兆候ですから、それに気がついたら、何はとまれ、先ず医者に診て貰うことです。

状態を聞き取り難い人は、

新刊 3月1日発売

信仰は生活だ!

つらつらのさんぽ道

篠田欣吾著

〔龍分教会長〕

〔改訂増補〕

定価一、二六〇円(税別)

月刊『陽気』にて好評連載中

出久根達郎 書き下ろし

教祖在世当時に活躍した 奈良奉行・川路聖謨を主人公とした 幕末奈良のドキュメント小説

まほらま

定期購読 受付け中

お道の家庭雑誌

陽気

◎定期購読の誌代は1冊で半年分…1,600円(送料共) 1年分…3,200円(送料共)

ゆうちょ銀行の青い振込用紙をご利用下さい。(口座番号 00990-3-17694 加入者 養徳社) 希望の号を指定の上、お客様の住所、氏名、電話番号をはっきりご記入お願いします。

問合せ先: ☎0120-920-398 養徳社 業務部窓口

【陽気担当者変更届け】陽気お取扱者ご担当者様のご変更の際、弊社ホームページよりファイルをダウンロードいただき必要事項にご記入いただきファックス下されるか、メールでご連絡ください。折り返し担当者からご連絡させていただきます。 F A X…0743-63-8077 (24時間 年中無休) 郵送…〒632-0016 奈良県天理市川原城町388 養徳社 業務部 メール…youtokusha-eigyou@poem.ocn.ne.jp